

資格取得は手段の一つで、目的ではないのでは

ある若者とのメール交換の中で、資格や免許取得に触れることが生じ、次のように送信した。

【 これからの世の中、何か資格等がないと就職もままならない時代。

でも、肝心な人と人が係わり合うとはどういうことかが忘れられ、資格等のある人（プロ）だと、大丈夫と思っちゃう、困った世の中ですね。

福祉のプロと云われる方々と係わり、支援されている親御さん、障害者、また、教官にプロたることを教えられている学生、更に、資格等のあるプロの方が、何の資格もない私に、なぜ、相談があるのでしょね。

資格等取得だけで人を支援し、育てられるのであれば、この世に悩む人、不幸せを感じる人はいなくなるはず。

就職のために資格等の試験に合格することは大事。でもそれは、あくまでも手段の一つ。

しかし、資格等を取って当事者に何をするつもりかという目的を、しっかり考えるように授業で話しています。

資格等を取れば、プロとして何か出来ると錯覚するような学生は育てたくないのね。

人と人が係わり合う仕事は、資格、免許というマニュアル的なものだけで対応できることではないですよ。

私は、知識というより知識を当事者にどう活かすかの知恵を少しでも授けることができればと思っています。

これからの世の中、こうしたマニュアルを求め、マニュアルで対応しようとするプロが多くなるだけに、益々、人と人の係わり合い方（コミュニケーション）を探求する私の仕事（ライフワーク）は、続くでしょうね。

この仕事（？）は、いつでも、どこでも、誰とでも、始められますし、永遠です。】

若者からの次のような返信があった。

【 先生からのメール、本当にその通りと思います。

今の時代、私も含め、何か資格や免許がないと、という焦りを覚える人は少なくないと思います。

でもその資格や免許を自己満足ではなく、相手のために何ができるか、何をしてあげられるかを真摯に考えられることが大切だと思います。

免許や資格があることで、それに甘んじたり、何も学ぼうとしなければ、本当に資格や免許を生かすこともできないと思います。

その考え方、姿勢を、これまでも先生にはご教示いただきてきました。

大変考えさせられる、貴重なメールを本当にありがとうございました。】

（2006年5月18日 記）